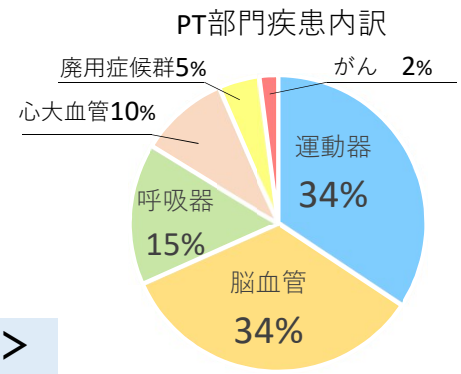
トヨタ自動車株式会社　2021年1月発行（第9号）

ウェルウォーク通信

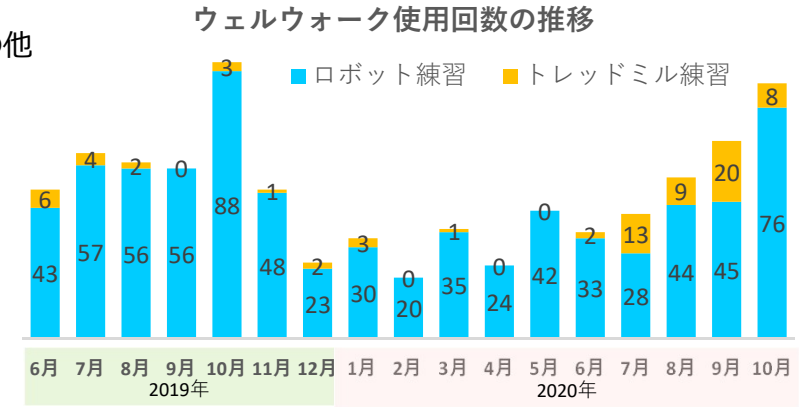
日頃はウェルウォークをご活用いただきまして誠にありがとうございます。第9回目の今回は、
急性期病院でウェルウォークを使用されている春日井市民病院様（愛知県）の取り組みをご紹介させていただきます。

春日井市民病院は病床数558床（うち救急病床6床、感染症病床6床）の急性期病院で、脳卒中患者の平均在院日数は20.9日となっています。リハビリテーション科には全診療科から処方があり、そのうち脳血管疾患は34%を占めます。常勤PTは15名、OTは6名、STは5名で、PT部門は病棟ごとのチーム担当制をとっています。脳卒中チームは常時4～5名で診療に当たっています。



＜ウェルウォーク取り組み内容(調査期間19年6月~20年10月)＞

■対象：脳卒中片麻痺患者、脊髄損傷患者、その他
■対象患者数：59/544名※1(11%)
■平均新規患者数：約1.1人/週
■入院中平均使用回数：約9.2回/人
■使用日：平日のみ
■1日の介入：平地歩行(1単位) ＋
　　ウェルウォーク歩行(1~2単位)



※1 脳卒中により入院しPT処方のあった患者数

■標準的なウェルウォーク練習の流れ

＜急性期病院としてのウェルウォーク利用＞

患者の選定基準としては、脳卒中発症前に歩行が自立(mRS：0-3)しており、発症後片麻痺によって歩行が困難な患者で、覚醒状態が良好(JCS1桁)、重篤な既存症・合併症が無く、安静度上の制限がない患者としています。点滴や尿道カテーテルなどのルート類が挿入されている患者においても、適切な管理のもと実施しこれまでにインシデントは0件です。

＜担当者のコメント＞

ウェルウォーク担当は置かず、脳卒中チームの担当者が通常の平地歩行とウェルウォーク歩行の両方を行うことで、短い在院日数の中で、早期に適応となる患者を評価し、練習開始しています。急性期である当院へウェルウォークが導入され一番に浮かぶメリットは、**”歩行訓練ができなかった患者ができるようになったこと”**だと感じます。近年、早期リハビリテーションが推奨されておりますが、患者の体格や麻痺の程度、姿勢障害により**平地歩行の“転倒リスクが高い”または“困難”な状況**が多々ありました。ウェルウォークは、転倒防止ハーネスや懸垂装置が備わっており、**転倒リスクを軽減し安全に歩行訓練**することができております。

練習の継続性を高めるために、ウェルウォークを導入している近隣の回復期病院との連携を深め、円滑な引継ぎが行えるようにすることが重要と考えています。